

総 説

第41回「日本性科学会学術集会」シンポジウム「不妊／疾患・治療と性のQOL」

生殖医療の現場からカップルの性生活支援について考える

獨協医科大学埼玉医療センター リプロダクションセンター

杉本 公平

【緒 言】

生殖医療は子どもを望むカップルに子どもを授けること、すなわち生殖行為を補助することを目的とした医療と表現できると考える。しかしながら、生殖医療の発展とともに生殖医療は生殖行為そのものとはどんどん距離が離れてしまっている感がある。生殖医療の現場ではカップルが効率的に生殖することが目的化し、生殖行為あるいは性生活に対する関心は置き去りにされてしまってきたように思える。1978年の世界初の体外受精児誕生からはじまり¹⁾、1992年の顕微授精妊娠例の報告など生殖医療の技術は目覚ましい進歩を遂げてきた²⁾。21世紀にはいるとタイムラプス法で受精から胚盤胞まで发育する過程を動画でみることもできるようになった³⁾。生殖医療従事者は生殖医療の専門家であるが、生殖行為そのものあるいは性生活についてはほとんど顧みることがなくなり、生殖医療については助言できても性生活そのものについては助言できるほどの知識がないこともしばしばあるのではないだろうか。本稿では筆者の産婦人科医としての歩みを振り返りつつ、生殖医療とカップルの性生活支援について論じさせていただく。

1. 不妊治療と性生活トラブル

産婦人科医が診療を始めるにあたって最初に覚えるべき手技はクスコ腔鏡を患者の腔に痛み

なく挿入することとっていいのではないだろうか。金属製のクスコ腔鏡を患者さんの腔に挿入することにとっても緊張し、痛みを与えてしまうと医師としての力量がないことがばれてしまうという不安を抱えながら診療をすることが多くの産婦人科医にとってのキャリアのスタートの記憶であると思われる。それから多くの出産、手術などを経験するうちに、患者さんを診療すべき、治療を行うべき対象、表現は適切でないかもしれないが、一つの「モノ（物質）」として認識するようになると思われる。もちろんそのことは客観的にプロフェッショナルの医療者として患者さんを診療するために重要な部分である。生殖医療では自分達の目では認識できない卵子、精子という極めて小さな対象を扱うために益々そのような傾向は強まり、その結果生殖医療と生殖行為・性生活はどんどん距離ができてしまう。性生活に思いが至らなかったために患者さんへの対応が不適切になってしまった自分の経験例を紹介する。

【症例1】

28歳 女性 G0P0 既往歴 特記なし
現病歴：挙児希望にて来院される。タイミング指導を開始して排卵前に経腔超音波で卵胞計測を行う。排卵日を予測して性生活を持つタイミングを指示する。

医師（筆者）「明日、タイミングをもつといいと思い

ますよ。」

患者「はっ（ため息をついて沈黙）。」

医師「どうされましたか？」

患者「この日がタイミングと主人に言うと、主人ができなくなってしまうんですよ…。」

医師「えっ、そうなんですか？ いやでもあなたはとてもきれいですし、そんなこと言わないで自信を持ってくださいよ。きっとご主人大丈夫ですよ。」

患者「…。」

患者のパートナーは結局タイミングを持つことができなかった。当時はバイアグラなどED治療薬もなかった。インターネットもない時代であり、医師、患者ともに情報量が少ない時代であった。その後2周期タイミング指導のために患者は来院したが、適切なケアも施せず、患者の表情は日増しに硬化してそのうち来院されなくなった。

解説：タイミング指導の指示がプレッシャーになり性交渉が持てない事例に対して有効な治療法がなく、さらには患者とそのカップルに対して適切な心理支援もできなかった症例である。現在であればED治療薬を用いる方法、あるいはシリンジ法といった治療法を提示することもできる⁴⁾。また、プレッシャーで性交渉をもつことができないという苦しみに対して、スピリチュアルケアなどの手法を用いて支援できたかもしれない^{5, 6)}。治療、患者ケアなど今から振り返ると不十分かつ不適切であった症例である。

【症例2】

35歳 G0P0 既往歴 クラミジア感染症
現病歴：挙児希望にて来院される。タイミング指導を6コース行うも妊娠に至らず。AIHへ

のステップアップを検討する方針であったが、治療の中断を申し出られる。

医師（筆者）「どうされましたか。何かあったのでしょうか。」

患者「はい、離婚することになりました。タイミング指導する時以外は射精するなどパートナーに指示していたんですけど、それが不満で我慢できないって言われました。」

医師「えっ、そんな極端なことをされていたのですか。精液のクオリティを保つためには数日ごとに射精したほうがいいのですが。」

患者「それはもうどうでもいいので。それより先生、あいつにクラミジア感染されたっていう診断書、書いてください…。」

解説：この症例もいわゆるIT革命前に経験したものであり、生殖医療・性生活などの情報が容易に得られる時代ではなかった。医療者から十分な情報提供が行えていなかったうえ、患者カップルの性生活について適切に情報聴取できていなかったために助言ができず、離婚から訴訟という紛争にまで至るという残念な結果になってしまった。

いずれの症例もインターネットが普及した現在と違い、医療者、患者カップルともに情報が十分に得られる環境ではなかったが、何よりも夫婦の性生活に対して十分なケアができていなかった。生殖補助医療（assisted reproductive technology：ART）も十分に普及しているとは言い難い時期であり、医療技術、患者ケアともに不十分であったと残念に感じる。

2. 性機能障害を支えるデバイスなど

上述の症例1で示したように現在でもタイミング指導を指示されるとそのプレッシャーのために性

交渉ができなくなるというカップルは少なくないと思う。ED 治療薬を活用される患者カップルもいるが、薬物療法を行うことに抵抗があり、腔内射精はできないがマスターベーションで採精できる方はシリンジ法を行う事ができる。シリンジ法は男性側の性交障害例のみならず、女性側の性交障害例でも活用できる方法である。本邦の生殖医療機器メーカーで生殖医療の発展に寄与してきた北里コーポレーション社の「White AI」(図1)などはシリンジ法で用いられるデバイスの代表

例である⁴⁾。腔内に挿入するカテーテル部分はシリコンを素材にしている。シリコンについて我々医療者で詳しいものは多くないと考えられるが、シリコンの成分組成などで柔軟性を調整できる⁷⁾。「White AI」は適度に柔らかく開発されており、特に性交障害をもつ女性にとっては腔内に挿入することに対する抵抗感を和らげるものと考ええる。これらのデバイスが普及することにより、性交障害などのために妊娠することに躊躇していたカップルが妊娠することに前向きになれるものとする。

図1) 北里コーポレーション社の「White AI」

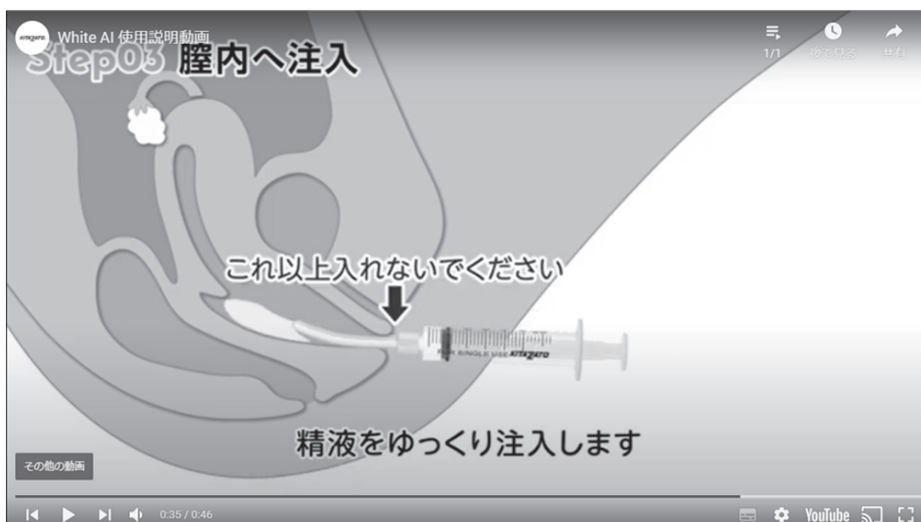
不妊治療機器メーカーが開発した
かんたん妊活キット

White AI 

- ☒ 長年のノウハウ・高い技術力に裏付けられた設計
- ☒ 徹底された衛生管理のもとで製造
- ☒ 商品は全て滅菌済み・個別包装でお届け



図2) YouTube による「White AI」の説明動画



このデバイスはAmazonで購入することが可能であり、使用方法はYouTubeの動画で学べることができる(図2)。先述した【症例1】を経験した時代とは隔世の感を覚える。

3. ARTと性生活の問題

体外受精・胚移植に代表されるARTに対して2022年4月より保険適用が開始された。今後、より一般的な医療として普及していくことが予想される。ARTのステップとして、調節排卵刺激(Controlled Ovarian Hyperstimulation: COS)、採卵、胚移植が挙げられるが、日本産科婦人科学会のARTデータブックでも明らかなように胚移植は凍結融解胚移植法が広く行われている。それらART治療周期の中で性交渉の可否について質問を受けることがある。その代表的なシチュエーションとその際に回答している内容について述べる。

質問1)「COSをしている時に性交渉を持っていますでしょうか？」

回答内容1)：卵胞が発育してきて卵巣が腫脹してきた時期には性交渉は控えたほうが安全だと思います。卵巣の茎捻転などのリスクがあるからです。ただ、通常月経中に排卵誘発を開始する 경우가多く、月経終了してまもなくの時期に卵胞発育と卵巣の状態を確認しますので、性交渉をもてる時期は限定されてしまうと思います。

質問2)「採卵後は性交渉をしてもいいのでしょうか？」

回答内容2)：採卵後は卵巣が腫大しており、さらに卵巣を穿刺した後であるために物理的な刺激を与えると腹腔内出血を起こす可能性があります。また、射精された精液が腹腔内に入ることによって骨盤内腹膜炎を起こす

リスクも考えられます。いったん月経が始まるまでは性交渉は控えたほうがいいのではないかと思います。

質問3)「胚移植の前には性交渉をしてもいいのでしょうか？」

回答内容3)：以前、胚移植前に人工授精を行うことによって妊娠率の向上を図った研究報告がありましたが、その後エビデンスとして確立されるには至っておりません。近年では子宮内細菌叢のバランスが妊娠率の影響を与えることがトピックとなっております。性交渉を持つことが子宮内細菌叢にどのような影響を与えるかわかっておりません。子宮内細菌叢を整える治療をされている方は少なくともコンドームなどを使用してせっかく整えた細菌叢のバランスを壊さないように努めたほうがいいかもしれません。

質問4)「胚移植後には性交渉をしてもいいのでしょうか？」

回答内容4)：体外受精が本邦で普及し始めたばかりの頃には、胚移植後に移植した胚が子宮外に出てしまわないような態勢のままで数時間安静を強いたり、時には数日間の入院をすることも珍しくはありませんでした。今では胚移植後の長時間の安静をする施設はほとんどなくなっているように思います。胚移植後の性交渉が妊娠率を低下させるエビデンスはないものの、妊娠が成立しなかった時に性交渉で物理的刺激を与えたことが原因ではないかと後悔することもあるかもしれません。

4. AYAがんサバイバーと性生活

近年、妊孕性温存療法などAYAがんサバイバーのQOL向上を目指した医療が注目を集め

ている。AYA がんサバイバーに対する支援を目的とした学術団体もいくつか立ち上げられており^{8, 9)}, AYA がんサバイバーの当事者団体などとも連携して AYA がんサバイバーを支える医療が普及しつつある^{10~13)}。AYA がんサバイバーに対する性生活の情報を入手するリソースはインターネットなどで見つけることはできるものの、一般的な知識として普及しているとは言い難

い。性行為を行う事の可否、性機能障害に対する対処方法など様々な情報を入手できる環境は整いつつあるが、AYA がん患者に対してこれらの情報が提供される環境を準備していく必要があると考えられる。このような問題に対するリーフレットが作成・発刊されているが¹⁴⁾ 図3), 今後はこれらの冊子などをどのように活用していくか検討していく必要があると考える。

図3) もっと知ってほしい がんと性にまつわること



5. まとめ

ここまで生殖医療と性生活について論じてきたが、医療においてその領域が発展し専門化が進むほど他領域を視野に入れた多角的な観点に立つことは容易でなくなり、他領域との連携は困難になっていくことを再認識した。生殖医療は生殖のために必要で最も基本的な行為である性生活と遠い存在になりつつあり、生殖医療の専門家が性生活の相談をされても十分に適切なアドバイスが行えなくなっている。どんなにARTの技術が優れていてもカップルの性生活についての良きアドバイザーになれないこともしばしばあると考えられる。今後はAYA がんサバイバーへの性生活支援も求められるようになっていくと考えられる。全ての領域を一人の医療者がカバーすることは現実的に可能であるとは思えない。が

ん・生殖医療はこれまで連携が必ずしもうまくいっていると言えなかったがん治療領域と生殖医療領域の連携が必要とされる新しい医療の領域である。この領域をけん引する日本がん・生殖医療学会は多職種の連携の重要性、いわゆる学際的連携の重要性について提言している⁸⁾。これは生殖医療と性科学の領域にも重要な課題になってくると考える。特にAYA がんサバイバーの性生活などについて考える時は、AYA がんサバイバーシップ領域と性科学の連携が必要になってくる。各々の領域がプロフェッショナリズムを求めるだけではなく、より患者に利益を還元できる形での学際的連携を求められる時代になりつつある。生殖医療、性科学の領域ともに今後は更なる他領域との学際的連携を視野に入れた活動を模索していくべき時期に差し掛かっているものとする。

【参考文献】

- 1) Steptoe PC, Edwards RG: Birth after the reimplantation of a human embryo. Lancet 2 : 366, 1978
- 2) Palermo G, Joris H, Devroey P, Steirteghem CV: Pregnancies after intracytoplasmic injection of single spermatozoon into an oocyte. Lancet, 340: 17-18. 1992
- 3) Mio Y, Maeda K: Time-lapse cinematography of dynamic changes occurring during in vitro development of human embryos. Am J Obstet Gynecol, 199: 660 e1-5, 2008
- 4) <https://www.white-ai.jp/> 2023年1月29日
- 5) 小澤 竹俊:医療者のための実践スピリチュアルケア, 第1版, 46-48, 日本医事新報社, 東京, 2009
- 6) 小澤竹俊の緩和ケア読本 苦しむ人と向き合う全ての人に. 日本医事新報社, 2012
- 7) Zare M, Ghomi, ER, Venkatraman,PD, Ramakrishna S, Siliconebased biomaterials for biomedical applications: antimicrobial strategies and 3D printing technologies. J Appl Polym Sci, 138 P. 50969, 2021
- 8) 日本がん・生殖医療学会 <https://www.j-sfp.org/> 2023年1月29日
- 9) 一般社団法人 AYA がんの医療と支援のあり方研究会 <https://aya-ken.jp/> 2023年1月29日
- 10) グリーンルーペ <https://greenloupe.org/> 2023年1月29日
- 11) AYA Generation + group <https://agutas.com/> 2023年1月29日
- 12) 若年乳がんサポートコミュニティ Pink Ring <https://www.pinkring.info/> 2023年1月29日
- 13) がんノート <https://gannote.com/> 2023年1月29日
- 14) もっと知ってほしい がんと性にまつわること sexualitybook.pdf (cancernet.jp)